

# 名古屋市農業委員会が変わります

農地の利用集積、遊休農地の発生防止・解消、新規就農の促進など、農地利用の最適化を図るため、農業委員会等に関する法律が改正されました。

これにともない名古屋市農業委員会は平成29年9月19日から、農業委員16人と農地利用最適化推進委員13人、合計29人の委員で業務を行います。

## 現行制度

(平成29年9月18日まで)



法改正

## 新制度

(平成29年9月19日から)



# 名古屋市農業委員会だより 第3号

平成29年8月発行

《平成29年第2回総会 平成29年4月20日》



## ～ 編集後記 ～

「名古屋市農業委員会だより 第3号」を発行できました。編集委員の皆様  
の努力の賜物です。ありがとう御座いました。

思い返せば、3年前の初めの総会で、会長が『名古屋市農業委員会のPR  
のため「農業委員会だより」を発行しましょう』と突然発言され、あれよあれよ、  
という間に、編集長に指名されてしまいました。

カラー写真を中心に各地区の農業を紹介する、という編集方針でのぞみ、  
各地区2人ずつの編集委員にA4半頁分の執筆をしていただき、それぞれ特  
徴がよくあらわれた、と思います。

今年度9月から、名古屋市農業委員会は新制度となりますが、引き続いて  
「名古屋市農業委員会だより」が発行されることを望みます。

現編集委員の皆さんからは、編集会議において、いろいろなアイデアが出さ  
れました。しかし、紙面にまとめ上げることができないことも、多くありました。  
この旨、新編集委員の皆さんに、伝えておきます。

読者の皆様、事務局の皆様、ありがとう御座いました。

編集長 岩田公雄 (名古屋市農業委員会 会長職務代理者)

## 農業委員会担当区域図



### ～編集委員～

編集長 岩田公雄

副編集長 布目巳佐子

委員

小島盛夫、柴田和夫

小川鐘敏、石田正雄

伊藤正幸、酒井政志

## みなさまと歩んだ3年間

名古屋市農業委員会 会長 上田 幸雄

私が会長を務めてもうすぐ3年近くになりますが、この間に、名古屋市の農業  
及び農業委員会は、大きな転換期を迎えることとなりました。

国の法改正により農業委員会改革が行われ、名古屋市農業委員会においても委  
員の定数など体制の見直しが進められました。9月中旬以降、農業委員と農地利用  
最適化推進委員による新しい体制がスタートすることとなりますが、これまで  
以上に農業の健全な発展に貢献できる体制にしていかなければならないと思います。

また、昨年度、港区南陽町の農業振興地域では、土地改良区ごとに農地の集約化についての話し合  
いが行われ、農地中間管理事業を活用した「人・農地プラン」がスタートすることとなりました。農  
家が抱える“人と農地の問題”を解決するための方策の一つとして期待しています。

それから、地産地消の推進についても各地で工夫を凝らした取り組みが進んできたと感じています。  
私の住む中川区でも、毎年11月の第1土曜日に地産地消フェアが行われ、新鮮な農産物の即売会やア  
トラクション等を通じて、広く区民に地元農産物への関心を深めてもらいながら、都市農業への理解  
と地産地消の推進を図っています。今後はこれらが一過性のイベントに留まらないように、積極的な  
地産地消のPRと販路拡大などの検討が必要になると考えています。

農業を取り巻く環境は、農家の高齢化や担い手不足、農地の減少など依然として厳しい状況にはあ  
りますが、私も農業委員も、行政・農家・市民をつなぐ架け橋として努力していく所存ですので、  
今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



東部・緑地区\*\*\*\*\* ~ 各地区紹介 ~ \*\*\*\*\*中川地区

柴田和夫（東部地区）

東部農政管内では、色々の野菜、果樹等が栽培されていますが、今回は、天白区内で栽培されているイチジク（無花果）について紹介します。

イチジクとは、桑科の落葉小喬木で、花は食用、葉や乳汁は薬用にします。この花は俗に実といい、みなさんが食べているものです。収穫時期は8月～10月で、収穫は早朝からはじめ夕方に出荷します。

そして栽培するには、いろいろと手間がかかりますが、そのかいあって糖度が高く、品質の良い無花果となり、地産地消の一品となるよう生産を頑張っています。



▲天白区内のイチジク畑

▼緑区の竹林とタケノコ



小嶋盛夫（緑地区）

緑区の竹林は数多くありましたが、30年前からの区画整理事業により、伐採、造成されたことにより激減しました。

この周辺地区のタケノコは「モウソウチク」という種類が大部分です。

例年タケノコの収穫時期の旬は3～4月頃ですが、今年は例年に比べ遅れていて、4月上旬になって、ようやくタケノコの先端がわずかに顔を出したぐらいです。

収穫は専用の鋤でタケノコ先端の穂先向きをみて根元に近い部分から掘ります。掘る方向を間違えると上手く掘ることができず、結構経験が必要です。

タケノコは収穫直後よりえぐみが増し、時間が経つほど固くなるので早めにあく抜きを行う必要があります。料理は生食、焼き物、煮物、揚げ物、炊き込みご飯とさまざまで、旬の食材としても重宝されています。

西部・守山地区\*\*\*\*\*

裏ワザその2

今回は、第2号に引き続き‘裏ワザその2’として冬キャベツの複数回収穫の方法をご紹介します。

・冬キャベツは通常11月～12月に収穫しますがその際、根を抜かず外葉を多めに残して切り取ります。しばらくすると、芽が大きくなるので年明けに形の良いものを一つだけ残し、化成肥料をひとつまみ追肥しておくことで4月頃もう一度収穫できます。同じ方法をくり返すと4月～5月に再度収穫できます。

大玉にはなりません興味のある方は試してみてください。

▼1月中旬の様子



▼3月中旬の様子



[その他参考事項]

・レタスと混植すると、モンシロチョウがレタスを嫌うためアオムシの害を防ぐことができます。反対にジャガイモとは相性が悪く1m離れていてもジャガイモの生育が悪くなるようです。そのメカニズムは解明されていないようですがキャベツからジャガイモの生育を抑える物質が拡散するのではないかと考えられているようです。

・ビタミンCやKが豊富で、胃炎や潰瘍の回復効果があるといわれるビタミンU（キャベツから発見されたのでキャベジンともいう）も豊富でまさに健康野菜です。

・1月下旬頃から鳥害に遭いますので、ネットなどで防いでください。



～中川区の今昔～



中川区マスコットキャラクター ナッピー



地名は昔と同じところが多いけど海や川の形は変わっているところがあるね！

昔から中川区に住む人たちがまちを造り今の中川区の農業を支えているんだね！

ハボン

↑【尾州御領分村々絵図】  
(所蔵：名古屋城総合事務所)  
嘉永2年(1849年)に作成された原本を昭和初期に複写したもの。

\*\*\*\*\*港地区



港地区を担当する農業委員は、10人(8人の選挙による委員・2人の選任による委員)で、農地の転用、権利の移動に関することから、最近では、農地中間管理事業に関する事まで、担当しています。

港地区は、米・トマト・スイートコーン・ブロッコリーなどが特産品です。

ここでは、市民の皆さんによく知られていない**水稻の集団栽培**(春季作業)と、**朝採りスイートコーン**の生育状況とを、紹介します。



港区の南陽地域には、約300haの水田がひろがり、7つの**土地改良区**と1つの**農協**の協力によって左図のように、春季作業が計画され、全面的、一括的に行われています(秋季作業も同じです)。

最近、7つの土地改良区ごとに**人・農地プラン**が作成され、今後の中心となる**経営体**としてJAなごやが100%出資する**㈱JA名古屋ファーム**が選ばれ、約140haの水田が農地中間管理事業に出されています。

